

「新たな旅のスタイル」に関する検討委員会

# 実施報告

2021/12/13

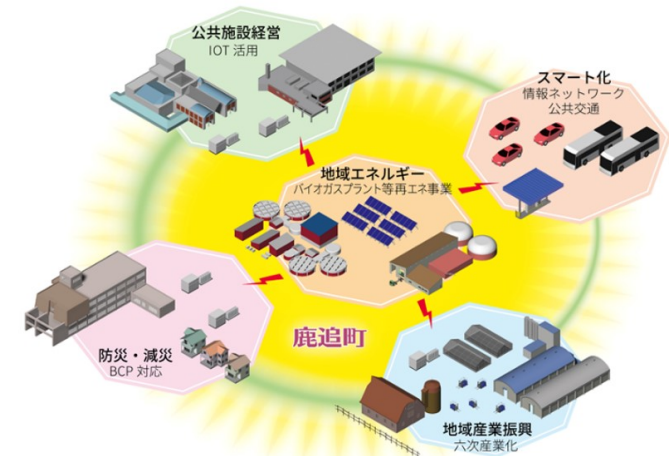
鹿島建設株式会社 環境本部 大野 直

## 団体/組織名：鹿島建設株式会社

## (1) 応募の経緯・目的-1

## 鹿追町との関係性・連携

- 家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業  
(平成27年度 環境省 地域連携・低炭素水素技術実証事業)
- 令和2年10月 地域スマートソサエティ構想調印 (公民連携)
  - ①地域エネルギー供給事業
  - ②公共施設経営
  - ③防災、減災はBCP対策
  - ④ICTを利用したスマート化
  - ⑤地域産業振興



出展：鹿島建設ホームページ

## 応募の経緯

- 鹿追町を水素実証フィールドとして選定したのは、実証への適性・条件を考慮した北海道庁からの紹介による。  
→それまで当社と鹿追町との関連はなく、初めての関係であった。
- 実証事業を進めることにより地域に対する理解が進み、互いの信頼関係が構築された。
- 2020年に、トップダウンにより地域連携によるスマートソサエティ構想の検討がはじまり、町との協定締結に至った。
- 上記構想検討の中で、地域課題の解決、まちづくりなどに関係する機会が生じるとともに、新たに様々な分野の社員が鹿追町を訪れる機会が増え、ワーケーションの共同実施に至った。

## 当社のワーケーションに係る背景

- ①建設会社という性格上、全国各地の都市から地方まで様々な場所で業務を行っている。  
オフィス外で業務を行うケースはもともとあったものの、あくまでワークであり、ワーケーションに類する社内規定はなく出張の一部として対応してきた。
- ②コロナ禍のもと、テレワークが制度として位置付けられ、通信環境などの整備普及が進んだ。  
但し自宅での業務が原則である。
- ③鹿追町とのスマートソサエティ協定のほか、もともと業務としてリゾート開発・運営や顧客のワークスタイルに係る提案などを行っている部署があることから、社内には多様なニーズ・関心があった。
- ④一方で、業務内容によってはワーケーションに馴染まない部署もあり、方向性としては消極的であるといえる。

## 応募の目的

- ①当社が地域と連携して鹿追町の環境、地域の課題解決等をどのようにワーケーションのツールとするか考える
- ②地域と連携したワーケーションスタイルを構築することで、企業価値の向上が図られるか検証する
- ③ワーケーションがもたらす社員や組織に対する効果を検証する

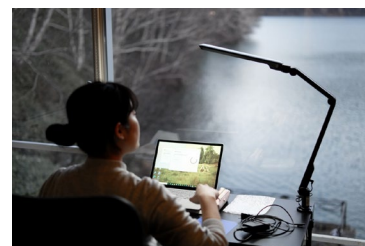
※サテライトオフィス型、地域課題解決型

団体/組織名：鹿島建設株式会社

(3) 感想 (気づき・効果・課題)

## プログラムへの参加概要

- ・ 第1回トライアル (10/5-8) ……生態系 (外来種)
    - 参加者 環境系部員 5名
    - ※全員鹿追町への業務での訪問経験あり
    - ねらい 設定テーマに係る課題解決検討 + 各自業務
    - ※ある程度下地となる情報がある上でのプログラム参加
  - ・ 第2回トライアル (11/16-19) ……エネルギー (バイオマス)
    - 参加者 開発系部員 6名 (+2名 独自参加)
    - ※全員鹿追町への訪問は初めて
    - ねらい 鹿追町の特徴を知る + 各自業務
    - ※初めての地での新鮮な体験、コミュニケーション
- 参加者の満足度は高く、ぜひこれからも参加してみたいとの評価。



団体/組織名：鹿島建設株式会社

(3) 感想 (気づき・効果・課題)

**気づき (感想)****【プログラム】**

- 今回の環境というテーマは当社と町の関りの面から適切であった
- 4日間という短期間でも内容が濃く町の魅力を十分に知る貴重な機会であった
- プログラムが多いと通常のように業務を進めることは難しい。逆に社員研修として企業に提供することはあり得る
- 体験プログラムがあるので家族を連れていきたいと感じた
- チームビルディングのメニューでは、普段接している同僚の別の面が見え面白い
- 一様でなく様々な参加者構成の際は参加目的や属性によりプログラムが異なると思う。

**【アクティビティメニュー】**

- アクティビティはオプションメニューとし参加希望者で選択するなどの工夫も必要では。
- 来訪者に提示するアクティビティがテーマごとに分かれていることは良いが、ワーケーション全体にテーマが必要かは検討が必要

**【ワークについて】**

- テーマ自体がワークである一方、メニューが多いと自身のワークの時間が足りない。
- 個人ワークの時間をニュートラルに構成できると良い
- オンライン会議用のスペースが必要
- ホテル内にコピー・プリンター等のオフィスサポートがあると便利
- 町のHPにWi-Fi環境をはじめどのようなワーク・滞在環境があるか掲載してあるよ良い

**【滞在面】**

- 長期滞在を考えると自炊・コインランドリーなど滞在をサポートする設備は有効
- 宿泊部屋のセキュリティ対策が必要

**【地域との関わり】**

- 参加者が町のファンになり、また訪れたいと思う効果がある



## 効果

- ・地域の魅力に触れ、豊かな環境のもとリフレッシュできるなど得られるものが多い
- ・地域への親しみが強まり、再訪したい、産品を購入したいなどの気持ちが生じた
- ・町民の方の熱意を感じ、今後もお手伝いしたいと思った
- ・参加者間の理解が深まり、新しい一面も知ることができた
- ・ワーケーションを行っている、ということが社外に対してのアピールになると感じた



## 課題

### ①社員の感覚

- ・参加する側のワーケーションについての整理が必要・・・説明しにくい
- ・ワーク重視かチームビルディング型か？ワークとアクティビティの両立をどうするか？
- ・リフレッシュできているように感じるが、定量的な表現をどうするか？

### ②会社の感覚

- ・バケーションが目立ってしまう。休暇、出張、テレワークとの関係整理が必要
- ・効果をどう評価するか
- ・テレワークではなくワーケーションとする強みがあるとワーケーションに前向きになれるのではないか
- ・参加できる社員に偏りが出るのではないかが懸念点
- ・地域課題解決プログラムをどう業務につなげるか
- ・ワーケーション実施企業に対する外部評価なども必要か？

### ③地域の課題

宿泊費やそれに伴うサービスなど、事業者と利用者がwin-winで実現されることが望ましい

